

令和元年度 日本大学山形高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び『自主創造』の3つの構成要素及びその能力」を確実にするため、本校の教育方針「1. 豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。」「2. 自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める。」「3. 心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う。」ことと教育実践の重点目標「1. 学習指導の徹底」「2. 生徒指導の徹底」「3. 特別活動の振興」の位置付けを全教職員で明確化・共有化し、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を念頭に生徒の育成に最善を尽くす。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を、育成知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を推進し、日本大学をはじめ、多くの大学への合格者数が大きく増加することを目指す。さらに、生徒による授業評価アンケート集計結果及び自由記述内容にある内容を精査し、「生徒と向き合う」意識の徹底と「生徒ファースト」による、安全安心な学校づくりを心掛ける。

【本校の特長及び課題】

「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を育成しつつ、個々人の進路希望を実現させるべくコース別学習指導の体制の下、学力向上を目指している。

適切な生徒指導の根幹をなす基本的生活習慣の確立、能動的な学習習慣の確立に努めている。また、地方の私立高校として特別活動の振興に努め、学園全体として文武両道を校是とし、感動と一体感を涵養している。

課題は、さらなる特色教育の充実を図るとともに、少子化に伴う生徒募集の在り方、校舎の耐震化と財政基盤の適正化にある。

令和元年度の取組結果

【概況】

令和元年度の取組目標に対する結果・進捗状況及び達成状況は、各校務分掌でおおむね結果が得られた状況であるが、生徒募集などあまり達成成果が得られなかった目標に対しては、継続事項として取り組んでいきたい。教師の授業力向上のための、教科横断的に行っている教員相互授業参観を学期ごとに実施しているが、今年度は全教員が実施するよう働きかけ一層の相互研鑽と授業改善の一助にできた。今後とも継続し、さらに効果を上げていきたい。また、校内の環境整備面については、校舎の老朽化はあるが生徒の要望を参考としながら少しでも快適に安全・安心な学校生活を送れるよう整備している。今後とも全教職員が協力して継続的に課題改善に当たっていきたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」に向けての取組として、県の研修会には、全教科から教員を派遣して研修を積み、その後、教務部と各教科で検討を重ねながら、新教育課程表の作成に取り組んでいる。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を行うとともに多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、英語の4技能検定と「eポートフォリオ」の導入を進めた。	B
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	相互授業参観などをして、授業力とクラスの教育環境の向上を図った。生徒による授業評価の結果は全項目で昨年を上回り一定の効果があつたと考えているが、さらに教育力を高めていく取組が必要である。	A
基礎学力の向上	相互授業参観を通して、授業等の相互点検を行い、教育力の向上を図るとともに、教科部会で振り返りの時間を設け、内容の充実を図った。また、多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るよ	B

	うに取り組んだ。中長期的目標と同一	
I C T教育の導入準備	1・2年生全員と3年生の特進コースの生徒にI C T化を多目的にサポートするツールである「Classi」(教育プラットフォーム)を導入し、連絡事項の伝達や学校行事・定期考査・各種大会ごとにアンケートを配信し、それに答えさせることによってポートフォリオの蓄積をさせている。今後は、さらに機能の効果的な活用を図る必要がある。10月から3月までiPad(生徒用40台)とロイロノートスクールのアカウントの無料貸出に応募し、国語・地理・英語・家庭の授業で活用した。また、教員用のiPadを20台導入し、I C T教育の推進を図った。ロイロノートや「Classi」の研修、I C Tを利用した公開授業に積極的に参加し、大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを導入するなどI C T機器の活用推進を図り、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブラーニング等の学習を進めた。中長期的目標と同一	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策推進法に基づき、本校のいじめ防止対策基本方針や危機管理マニュアルに則ったいじめの未然防止と早期発見に取り組むとともに、初期対応の重要性を認識し、生徒の気持ちに配慮しながら組織(チーム)としての対応に努めている。 保健室などに来室した生徒が、いじめや人間関係のトラブルなどを訴えた場合には、早期にいじめ防止対策委員・生活指導部・学年主任・担任・部活動顧問などと情報を共有し、共通理解の下で問題解決に当たっている。 生徒と担任との二者面談等を行い、生徒理解に努めるとともに、状況に応じて保護者との連携を図りながらサポートに努めている。 6月と11月に「いじめ発見調査アンケート」を実施し、いじめの防止・早期の発見と対応に努めている。 外部での各種教育研修会に参加し、指導力の向上に努めるとともに、いじめ防止対策に関わる校内教職員研修として、山形県教育センターから講師を招き、「ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応」についての研修を実施した。 生徒会によるいじめ防止のためのスローガンを作成し、いじめ防止に対する生徒の意識の向上を図った。 ネット被害防止スクールガード事業におけるネットパトロール等を通して、いじめの未然防止やSNSトラブル防止対策に取り組んでいる。 	B
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 新入生に対して、入学前の3月下旬に実施した本校の学校生活に関する説明(保護者同伴)の場において、生活指導についての説明と事前指導を実施した。また、4月の新入生オリエンテーション期間に、生活指導部が中心になって高校生活全般についての全体指導を行った。また、クラスごとのホームルームでの指導でも共通項目に基づく統一した指導を実施した。 各学期の始業式後に、学年ごとの頭髪・服装検査を実施した。(2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施) 外部講師による生活指導講話を年4回(「自転車交通安全教室」「薬物乱用防止・ 	B

	<p>SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの使い方やSNSトラブルの防止の為の指導を実施しているが、今後も継続的な指導に努めたい。 ・4月～11月末までの水曜日の登校時間帯を中心に、教員・学級委員・週番委員が一体となった挨拶運動や駐輪指導を実施した。 ・6月と10月の県高校生マナーアップ運動期間には、生徒会役員を中心とした啓発運動を実施した。 	
交通安全 問題行動の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に生活指導講話「自転車交通安全教室」を実施（1学年）した。また、各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識の向上を図った。 ・登下校時の通学路の巡回指導を実施している。 ・問題行動の未然防止のための指導や、心配される事柄に対する生徒への注意喚起等に関しては、担任によるクラスでの指導と、学校や学年での全体指導を適宜実施している。 ・普段からの継続した指導とともに、警察署や外部の専門家による生活指導講話を実施するなど、事件や事故、トラブルの防止に取り組んだ。 	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動の適正化	部活動の在り方に関する方針を策定し、発展的な改革を進めた。	B
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努めた。	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期、冬期、春期の講習会で基礎学力到達度テスト過去問題等の演習（1・2年は進学・特進全員、3年は特進全員、その他は大学進学希望者全員） ・日本大学学部等説明会（2・3年生徒） （芸術学部、生物資源科学部、看護専門学校、理工学部、国際関係学部） ・日本大学出願基準等説明会（3年生徒） ・日本大学出願基準等説明会（3年保護者） ・日本大学工学部オープンキャンパス バスツアー（2・3年生徒及び保護者） ・2学年進路説明会 分科会〔日本大学〕（2年生と及び保護者） ・生産工学部高大連携教育（3年生徒） 	B
きめ細かい進路指導	<p>学級担任と進路指導部員が連携を密にしながら、生徒の現況をしっかりと捉えて進路指導を行った。進路情報の提供は生徒のみならず、保護者にも向けられていて進路相談にも応じられる環境づくりがなされている。大学・専門学校・企業などの情報を踏まえ、担任とともに一緒に考えられる体制は生徒たちや保護者からも高い評価を得ている。</p> <p>学習状況や学力分析については「Benesse」のスタディーサポートの活用分析会等を通し、担任がそれらを把握し二者面談等に生かせるようになっている。</p>	A

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の様々な「不適応状態」や「困り感」の早期把握と、それに対する早期対処のシステム化	何らかの「不適応状態」を呈した生徒が発生した場合、本人や保護者と面談等を繰り返し行うことで、それぞれの悩みや困り感をその都度的確に捉えることができ、併せて関係する学校スタッフと適宜カンファレンスを行って情報共有し対応の計画立案や報告を行えたケースが増加した。しかし、「システム化」については議論する段階にも至らなかった。	B
情報収集の効率化	生徒の欠席状況についてはタイムリーに把握できたケースとできなかったケースの乖離が大きかった。一方、支援した生徒の欠時状況については必要なタイミングで調査し担任や本人に報告・説明できたケースが昨年度より多かった。支援員とタイアップして情報収集が効率的にできている。	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒、教職員、一人ひとりに届く広報活動	新入生オリエンテーションと図書館前の階段下及び6号館の掲示板の充実を目標に行った。オリエンテーションもうまくいき、1年生全体への広報が行き届いた。掲示板も、内容を吟味したり、館報で紹介したりするなど進展が見られた。	A
知的興味へ誘う環境作り	小論文関連書籍は、今年から他校と連携し、更に充実させることができた。日替わりで「本日のおすすめ本」のコーナーを設けることを方策として挙げていたが、実行できなかったのので来年度は実現したい。	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
入試制度の変更により志願者を増やす。	取組目標に「入試制度の変更により志願者を増やす」と掲げたが、入試制度はほとんど変更できず、志願者数も昨年度比-24名となり、目標は達成できなかった。	D
ホームページを利用し、本校の魅力をアピールする。	ホームページに各教科のシラバスを載せたり、学校説明会の部活動見学可能な部の一覧表を載せたりしたことにより、本校の魅力をアピールすることに一役買ったのではないだろうか。また、学校自己点検のホームページや学校案内についての評価が昨年度より高い数字になっていることは評価に値する。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
経常費補助金収入の改善及び人件費の適正化	1学級の生徒数40人以下学級編制及び非常勤講師の持ち時間数を15時間以上とするなど、経常費補助金算定上の要件充足及び減額要因の解消に努め、補助金収入の安定確保を図った。また、人件費の適正化を図るため、生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直した適正な教員数を配置した。	A
経常費補助金（特色教育推進事業）の収入確保並びに特色ある教育の充実	「教学に関する全学的な基本方針」を有効に機能させながら、本校独自の事業計画を策定し、特色ある教育を実施することにより補助金収入の増収を図った。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和2年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」施行に向けての取組は、具体的に教育課程表の作成を行う。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を行うとともに多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の4技能検定、「eポートフォリオ」の対策を進める。	教育課程表を2020年度夏までに策定する。その後、大学本部へ申請、2021年4月に県へ申請する。「高大接続改革」に向けての取組は、不断の授業改善を通年行う。
ICT教育の推進	「Classi」の効果的な活用方法を積み上げながら、機器の充実と教員の技能を高めるための研修を行っていく。2020年度は教員用iPadを49台導入し、ICT教育を推進する。	通年
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	評価結果に基づきながら、相互授業参観などをして、授業力とクラスの教育環境の向上を図る。また、各種研修会への参加を促す。	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	生徒との信頼関係を築き、面談や声掛けなどを通して生徒理解の深化を図る。	通年
	保健室などとの連携を図り、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、組織（チーム）として問題解決に当たっていく。	通年
	「いじめ発見調査アンケート」の実施と適切な対応	6月・11月
	生徒会が中心となって作成したいじめ防止スローガンや、関係機関からの啓発ポスターの掲示	1学期
	各種研修会への教職員の積極的参加	通年
	ネット被害防止スクールガード事業を通じたネットパトロールの実施と対応	通年
	重大事態への対応についても、いじめ防止対策推進法及び本校のいじめ対策基本方針に従って適切な対応に努める。	通年
基本的な生活習慣の確立	新入生に対する事前指導オリエンテーション期間での全体指導とクラスごとの統一した指導の実施	通年
	担任をはじめ、教員全体による日頃からの継続的な指導と対応の徹底	通年
	定期的な全体指導の実施 (学年集会、生活指導講話、頭髪・服装検査などの実施)	定期

	担任会・学年会と生活指導部などとの連携の徹底	通年
交通安全指導 問題行動の防止	交通安全教室（1学年）の開催	4月
	各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識の向上を図る。	通年
	登下校時の通学路巡回指導の実施	通年
	トラブルや問題行動防止のための継続した指導や注意喚起	通年
	生活指導講話の開催 （講話後に振り返りシートを活用するなど、生徒の積極的な参加を図る）	年4回

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動の適正化	部活動に関する活動方針を策定するとともに、発展的な改革を進める。	4～5月 方針の策定・決定 6～7月 生徒数や教員数を踏まえての部活動数・種類の検討
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努める。	5月以降 方針を踏まえての活動の見直しと実践

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	夏期、冬期の講習会等で実力養成や基礎学力到達度テスト過去問題等の演習 （学習会形式の変更を検討中）	7月、12月
	日本大学学部等説明会（2・3年生徒） （対象学部を増やし、日を絞っての実施を検討中）	6月
	日本大学出願基準等説明会（3年生徒）	6月
	日本大学出願基準等説明会（3年保護者）	6月
	日本大学工学部オープンキャンパス パスツアー （2・3年生徒及び保護者）	8月
	2学年進路説明会 分科会〔日本大学〕（2年生と及び保護者）	10月
	生産工学部高大連携教育（3年生徒）	11月～1月
きめ細かい進路指導	学級担任と進路指導部員が連携を密にしながら、生徒の現況をしっかりと捉えて進路指導を行う。	通年
	進路情報の提供・進路相談にも応じられる環境づくりに努め、生徒や保護者に利用の便を図る。	通年

	学習状況や学力分析については「Benesse」のスタディーサポートの活用分析会等を通し、学級担任が生徒掌握に、また教科担任が教科指導に生かせるよう努める。	1 学期初め 2 学期初め
--	-------------------------------------------------------------------------------	------------------

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の学校生活適応状況把握を目的とするスクリーニングとP D C Aカンファレンスの積極的実施	欠席や欠時の状況把握と共有、それを基に適応に向けてのアプローチを積極的に行う。また、生徒の所在や登校しているかどうかの把握を、日数等の基準を設けて学年からルーティンで聴取する形を作る。	通年
環境整備に関する毎年のルーティン業務の確認と整理	毎年行っている業務を見直し、実施要項やガイドライン等を具体的に作成する。	通年

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒、教職員、一人ひとりに届く広報活動	学年ごとに連携の強化。探究学習への協力 掲示板の充実	春、秋など通年 通年
知的興味へ誘う環境作り	一定期間を決め（読書週間等）、日替わり特集本コーナー（「本日のおすすめ本」）の設置	読書週間（秋）等、通年

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒募集に当たり、推薦・専願の受験者数を増やす	中学校訪問や学校説明会等で本校の魅力や日本大学への進学の特長性を丁寧に説明し、推薦及び専願での受験者数を増やす。	通年
ホームページを利用し、本校の魅力をアピールする	大変見やすくなったホームページで更新を迅速に行い、常に新鮮な情報を伝える。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	ゼロベース予算、冗費の節減、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減対策につなぎ、財政状況が改善するよう継続して取り組む。	継続して取り組む

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
基礎学力の向上	相互授業参観を通して、授業等の相互点検を行い、教育力の向上を図るとともに、教科部会で振り返りの時間を設け、内容の充実を図った。多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るように取り組んだ。	B
I C T教育の導入準備	1・2年生と3年生特進コースで「Classi」を導入し、主にアンケート機能やポ	B

	<p>ートフォリオ作成のためのツールとして活用した。10月から3月まで iPad (生徒用 40 台) とロイロノートスクールのアカウントの無料貸出に応募し、国語・地理・英語・家庭の授業で活用した。また、教員用の iPad を 20 台導入し、ICT 教育の推進を図った。ロイロノートや「Classi」の研修、ICT を利用した公開授業に積極的に参加し、大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを導入するなど ICT 機器の活用推進を図り、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブラーニング等の学習を進めた。</p>	
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	<p>ゼロベース予算、冗費の節減、学校経営に対する個々の意識改革の徹底を全教職員へ周知し、経費節減等支出削減対策につなげ、財政状況が改善するように取り組んだ。</p>	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	<p>「新学習指導要領」施行に向けての取組は、具体的に教育課程表の作成を行う。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を通し多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の4技能検定、「eポートフォリオ」の対策を進める。</p>	<p>教育課程表を2020年度夏までに策定する。その後、日本大学へ申請、2021年4月に県へ申請する。「高大接続改革」に向けての取組は、不断の授業改善を通年行う。</p>
ICT教育の推進	<p>「Classi」の効果的な活用方法を積み上げながら、機器の充実と教員の技能を高めるための研修を行っていく。2020年度は教員用の iPad を 49 台導入予定で、ICT 教育の推進を図る。</p>	通年
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	<p>評価結果に基づきながら、相互授業参観などをして、授業力とクラスの教育環境の向上を図る。また、各種研修会への参加を促す。</p>	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
校則に関する共通理解の下で、中長期的な視点に立った指導と適切な対応を図っていく。	<p>本校の校則について、入学時より周知徹底を図り、教員間で温度差のない共通した統一的指導を徹底していく。その際、中長期的な生徒指導や支援を行う上で、従来の指導方法だけに固執することなく、社会の実情を把握し、状況に応じた適切な対応について教職員間で継続的な議論が重要である。</p>	<p>その都度、必要に応じた担任会、学年会、生活指導部会等で具体的な指導や支援について議論を重ね、指導内容について繰り返し検証・考察を重ねていく。</p>

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	ゼロベース予算，冗費の節減，教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により，経費節減等支出削減対策につなぎ，財政状況が改善するよう継続して取り組む。	継続して取り組む。